

社会人大学院の持つ意義について

呼吸器外科学 教授 蘇原 泰則

平成18年度から社会人大学院制度が導入され、我々呼吸器外科学部門でも2人の大学院生を受け入れました。一人は宇都宮社会保険病院、もう一人は自治医大附属病院に勤務する医師です。今後、彼等は呼吸器外科医としての生活基盤を持ちながら、研究活動を行うこととなります。

臨床医の研究スタイルは様々の変遷を経て現在に至っております。昭和40年代の激しい医学部紛争は、学位を利用した医師への労働収奪に対する生活闘争でした。当時、学位を取得しなければ、医局での地位向上や関連病院への就職が不可能だったのです。研究テーマは教授から一方的に与えられるもので、研究者の自由な発想に基づくものではありませんでした。しかし、めでたく学位を取得できれば、確実にステップアップすることができました。

医学部紛争は教授権限の著しい低下を持って終わりました。以後、研究者たちは自分の興味や夢に基づいた自由な発想で研究を行えるようになりました。当時、医療保険制度が緩やかで、大学病院では採算を度外視した研究性の高い診療も可能でしたので、多くの興味のある研究が生まれました。また、臨床業務が少なく、研究に十分な時間を費やすことができたので、低賃金ではありましたが、数多くの優秀な人材が大学に残りました。

この情況を一変させたのが医療保険財政の悪化です。大学病院でも採算を無視した診療が行えなくなったため、医師たちは日常診療に追われ、奔命に疲れ果て、研究に費やす時間が持たなくなりました。大学が持っていたゆったりした時間や自由な雰囲気、夢ある研究体制が崩れてしまったのです。このため、優秀な人材が次々と大学を離れ、研究体制が崩壊しつつあります。

医学研究は夢を追うものだと思います。しかし、人は夢を食って生き行くことはできません。生活の基盤なくして、優れた研究は生まれません。今のような状況が続くと、財力ある特殊な医師しか研究を行えなくなります。これは医学研究の終焉を意味します。

このような危機的状況を打開してくれるのが社会人大学院制度であると期待しております。研究に夢を持つ貴重な人材を物心両面で支える体制ができあがれば、再び大学に人材が戻ってきてくれるものと信じております。このためにも、社会人大学院生を大切に育ててゆきたいと思っております。

社会人大学院入学によせて

地域医療学系専攻1年 手塚 憲志

自治医科大学医学部16期卒業で、現在、医師になって14年目になります。栃木県出身です。義務年限終了後、自治医大呼吸器外科に入局し、現在は宇都宮社会保険病院にて胸部外科医として働いています。一人で外来、検査、手術、病棟とやっていますので、結構忙しい毎日を送っています。

大学院入学のいきさつをお話します。今年の初め、蘇原教授から、「4月から自治医大でも社会人大学院が始まることになった、入学してみないか？」と電話をいただきました。たしか願書締め切り10日前だったと思います。そのとき初めて社会人大学院の事実を知りました。卒業後、2年間初期研修を自治医大で行い、中核病院に外科医として6年、後期研修で大学に戻り2年、そして診療所3年勤務してきました。研究は診療所にいるときはきっちり研究日をもらえたので、大学に週一回きてやってきました。しかし、最近は仕事が忙しくなかなか実験をできていませんでした。そんな姿をみて、教授は社会人大学院入学を勧めてくださったのだと思います。

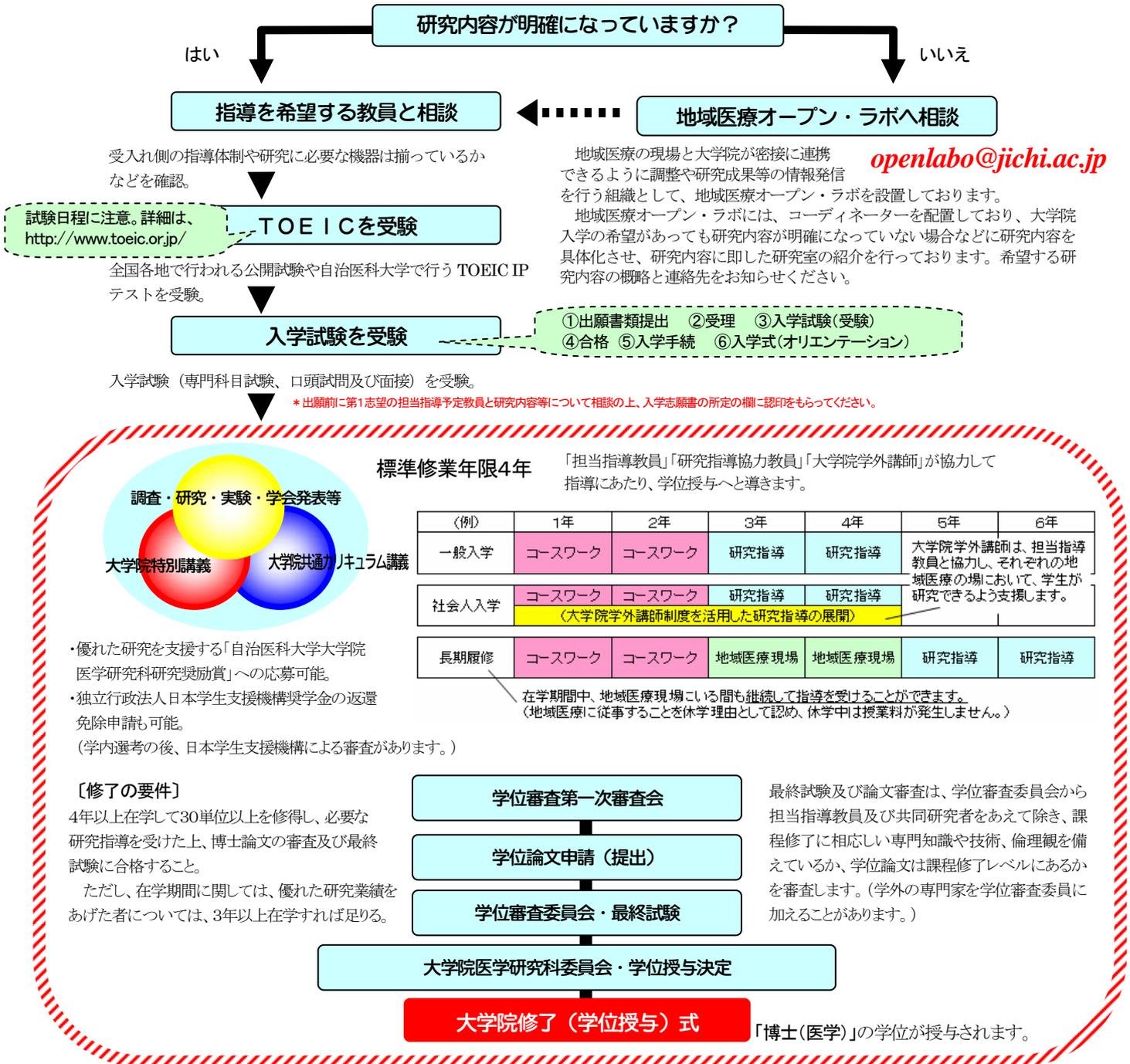
正直いいますとこの年で今更？といった気持ちもなかったわけではありません。仕事はそれなりに忙しい毎日を過ごしていましたし、妻も妊娠中で5月に3人目も生まれる予定でしたし、(無事男の子が生まれました！) いろいろ迷った上で受験することになりました。

社会人大学院については、3、4年目に勤務していた病院で同僚が他大学の社会人大学院に入学していて、「へえ、そんなものもあるんだ、いいなあ」と思っていました。そのときから、自治医大こそ必要なシステムだと思っていました。ご存知のように自治医大卒医は義務年限内、県の意向で派遣されます。地方の医師不足も伴って、義務年限内に大学で後期研修、通常の大学院等で大学に戻ってくるのは、これから更に難しいと思われます。実際、栃木県は以前より大学院、後期研修枠が少なくなっています。かといって卒後9年たって、大学に戻ってくるには大変な勇気がいります。これから社会人大学院は大学と関わりを保つ有効な手段となっていくと思います。また、卒業生にどんどん大学に戻ってきていただくと更に大学は活性化していくと思います。

これから私自身も社会人大学院1期生として恥じないように頑張っていこうと思っています。皆さん宜しくお願いします。

大学院入学から学位取得までの流れについて

社会人特別選抜試験の実施や TOEIC の導入に伴い、大学院入学までの手続きに関する問い合わせが多くなってきております。ここで、簡単に大学院入学から学位取得までの流れをご説明いたします。



自治医科大学医学部卒業生の学位取得状況把握のためのアンケートについて

本学医学部卒業生を始めとする地域医療の現場で活躍されている方々が学位を取得する際に直面する問題点を明らかにし、今後、どのような支援体制を整備することが望ましいのかを検討するためにアンケートを実施いたしました。

アンケートの実施にあたり、ご協力くださいました皆様へ深く御礼申し上げます。アンケートの結果につきましては、次号以降の本紙にてお伝えさせていただく予定です。

地域医療学センター（地域医療支援部門） 魅力ある大学院イニシアティブ・コーディネーター専任教授 岩花 弘之

自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7044 / FAX 0285-44-3625 / e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>